

発音ができるとリスニングができる

本書では、下の図1-2のような状態を目指します。



これはネイティブスピーカーと同じ英語の聞き方です。日本語は一切介さずに、英語とイメージが直結しています。英語を聞いてもそのまま理解でき、なんのストレスもありません。力を抜いて聞いていても、しっかり中身が聞き取れます。

こうなるための方法として、本書では「発音のマスター」を提案します。**自分の口から出せる音は、容易に聞き取ることができるのです。**

ところで、それとは逆の「リスニングができれば発音もできる」という意見を聞いたことがある人もいるのではないのでしょうか。じつはこれも間違いではありません。発音とリスニングは相互に関係しています。

本書が発音から先に学ぶ方法を採用しているのは、単にその順番で学習したほうが効率がいいためです。その理由を一言で言うと、「**自分でやってみるとよくわかる**」ということにつきます。

スポーツを例に考えてみてください。自分で実際にやったことのあるものは、観戦の際にも細かなところまでよくわかります。見ているだけで、プレイヤーのひとつひとつの動作の意味や、次にやるべき動きのような深い部分まで理解できると思います。

その逆に、もっぱら観戦だけしてきたスポーツを、実際にプレーしてみるとうまくできるでしょうか？ よほど才能のある人にはできるのかもしれませんが、普通は難しいでしょう。まさに「見るとやるでは大違い」なのです。

英語の発音も、口の筋肉を使った「運動」のひとつといえます。最終的に観戦する（聞く）のが目的だとしても、自分で実際にプレー（発音）してみるのが習得の近道になるのです。その逆に、ひたすら観戦する（聞く）だけでは、実践（発音）も深い部分の観戦力（聞く力）もなかなか上達しないのです。

正しい発音ができるようになると、その音を聞いたときにすぐに判別できるようになります。**なぜかという、英語を聞いたときにその音の口の形が頭に浮かぶようになるためです。**結果として、リスニング力が向上します。

余談ですが、発音はあまりよくないけれどリスニング力はあるという人もいます。その人は図1-1の作業を、頭のなかで超高速にやっているのだと思います。その証拠に、気力があって集中しているときにしか聞き取りの力を発揮できないはずで

「素振り」のように反復練習

では、どうしたら正しい発音を身につけることができるのでしょうか。

上にも書きましたが、発音は勉強というよりもスポーツに近いと考えてください。たとえばテニスや野球では、スイングの「型」があります。これは、練習を繰り返すことで身につけることができるものです。

同じように、**まずは英語の発音の「型」を身につけることが重要**です。